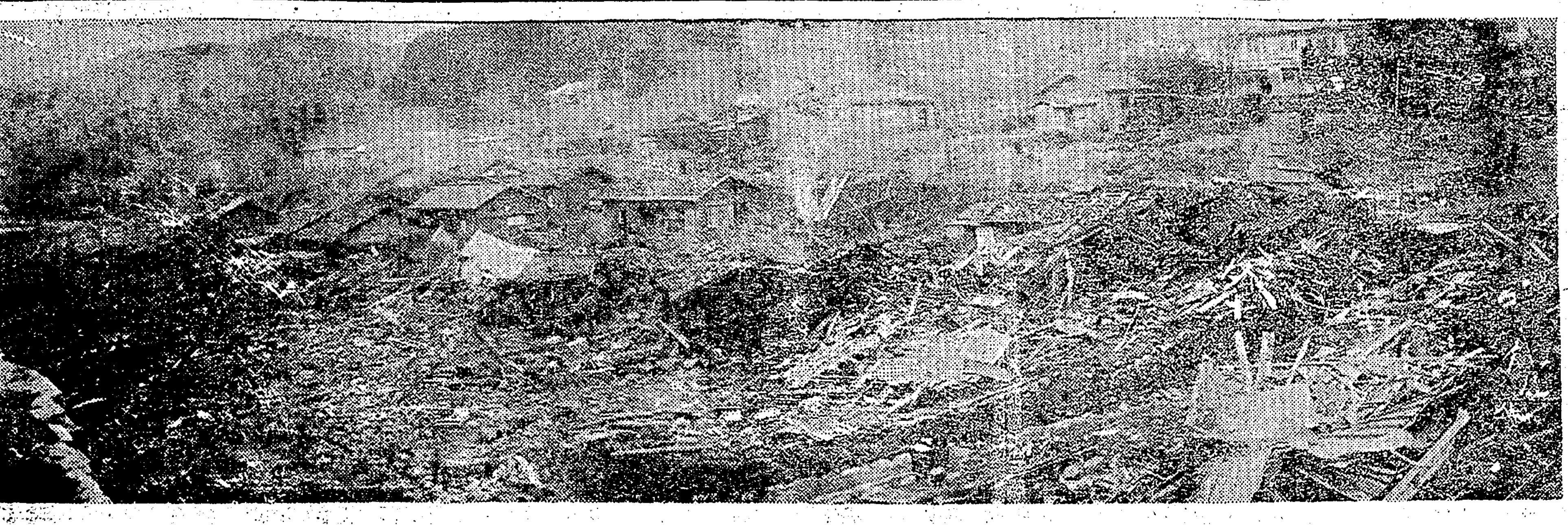
なんと云ふ悲惨！
一村微塵ただ廣莫
震害後最初の訪問者となる
唐丹村にて　松本特派員發

三日夜十時記者は鎌池君と中村寫眞班君と三名松原嬉石を經て海岸線傳ひに沿岸の狀況を具さに視察し乍ら約四里の夜道を陸行で氣仙郡唐丹村に向つた、唯一つの提灯の光を賴りに餘震頻々たる中を海傳ひに進む無氣味さ――松原は倒壞家屋三十五戸嬉石では七十五戸行手の道に無殘に倒れたこれらの家屋が累々と重つてゐる。柱を戸を屋根を電柱を跨み越え〳〵進むこと約三十分、時々電線が足にからんで轉がる。潮騒がゴーッ〳〵と鳴つてゐる。何だか又津浪が押よせて來たやうな氣がしてドキッとする。漸く街道に出ると左手には夜目に凄い眞暗な海、右手の山からは、ゴロ〳〵と大きな石が轉け落ちて道を塞いでゐる。約二里行進平田部落に着いた、部落の中川一二方に青年團員がこの夜を警戒のため集つてゐるので立寄る。この部落は倒壞家屋十七戸、死者一名何でも死んだのはこの家の下手の方の後藤アサ（七一）婆さんで五十才になる嫁が背負つて運び出さうとした時には既に波が押寄せて來たので嫁が婆さんを置いて逃げたのだといふ悲慘な話しだ

庭先きの選擇ストーブに暖を取つて居ると三日の地震以來の疲勞が出てうとうとと他愛なく三人とも倒れて仕舞ふ、目を覺ますと四時だ恰度花卷町の松田爾松方雇人大澤伊三郎（二〇）と云ふ人が唐丹村の實家に急を聞いて急ぎ歸るのだとて立よつたので我等三人は此家を立ち行を共にする行手はだんだん氣仙と上閉伊郡境の凄い平田峠にかゝる（奥州流血錄）に出て來る野田の百姓一揆が越した名だたる險所だ

道には氷が張り詰め靴はズル〳〵すべり何遍スベッて轉んだか涙が出さうだこれも險しい山道の役目であるひどい山坂を約一里登ると頂上に出た頂上から谷は南向きなのでもう立派な春だ峯をもとめんとするならば曉の光を浴びて遙か眞南の中央に見ゆる鍬臺山瞬あるばかり道を下つて行く事約半里其處は唐丹村本郷部落のありし處――渺茫たる一面の曠野が唐丹灣に面して居る約百戸の部落は全部影も形もなく流失しよくもこれ迄粉微塵に碎けたと思はれる木片の山、家の恰好が殘つたのは**タッタ二軒**共に一軒の方から大漁半天を着た親父が出て來た女房をなくしたと云ふ三浦吉太郎と云ふ人で聲を立てゝ泣いて訴へるのだつた誰が此の大慘狀を見て涙なしと云得よう然も救護班の警察官よりも誰れよりも眞先きに此部落を訪ねた新聞記者は我々一行だつたのだ聞くと三日地震後の夜明け浪打際に打上げられてウメキを立て救ひを求める瀕死の罹災者十人餘りも居り其の慘狀さは二目と見られなかつたと云ふ今はゴザをかけられて居る累々たる死体の山其數五十ヶを越すだらう鬼氣自ら迫るものがある其あたり倒壞した水浸たしの屋根の下に、**バリ**〳〵破けた唐紙、赤ん坊は何處に行つたのか嬰兒籠、赤い鼻緒の**ポン**〳〵下駄、出齒庖丁等を見ると薄氣味惡るく**ゾク**〳〵寒氣が身に迫る烏が群をなして居る何を啄いで居るのだらう**ゴロ**〳〵した中を歩いて行くと大木の下から**ギロリ**と兩足が出て居る片方にだけ足袋を穿いた無殘な足

約四丈の大津波だつたとの事で發動機漁船が二隻遙か山腹に腹を見せて覆つて居るその山に一頭の馬が主を失つた事を知つてか知らでか青草を食べて居る馬は獨りで逃げ出したのか人の親は大抵寢て居た子供を助けるために命を失つたと云ふ事で此部落丈でも海底の藻屑と消えたもの三百五十人生き殘つたものは半數にもたらぬ二百五人で大抵男であつた今はうちが倒れそれ〴〵他家に收容されて居る有樣である


此の惨！　唐丹村小白濱（昨夜十時到着）中村特派員撮影

筆紙に盡せぬ慘
鵜住居から大槌を訪ふの記
大槌にて　金田特派員發

三日の夜が明けると大槌町が火事と準波で全滅だと云ふ風評、それは大變と釜石から出發する。約四里鳥ヶ澤峠を綿の如く疲れてゐる新聞社に籍を置く責任感で進み鵜住居村水海部落に到着した無數の大木は根こそぎに倒れてゐる此處は戸數は少ない流失家屋二軒負傷を負うた女を擔架に乘せて鵜住居村方面にかつぎゆくのを見る倒潰一戸、死んだ話を聽いてゐると進んで鵜住居村兩石につく慘狀の甚だしいのに驚く、こゝは漁村で九十六戸の中山の手にある五戸だけが殘つて全滅し一面の野原と化してゐる部落民は食ふに米がない衣類もない誰れ若少しも早く救つてやつてくれ、命から〴〵助かつた者も右の始末だ、舟もない家もない涙なくしては見られない此處は死者三名であるそれから更に強行軍して鵜住居につく此處は高所にある關係上損害は殆んとない次いで片岸部落につく總戸數五十戸その中流滅二十三戸死傷者はない見込み慘狀は筆紙に現はす事は出來ない、道路は到る所決潰して居る通行は非常に危險である室濱につく全戸數五十戸その中潰滅したもの十二戸五歳の子供が死に同村板橋では女三人死んだ箱崎部落には地勢の關係上行かないが可なり死傷者はある見込み午後一時頃近く大槌町が見える。小槌川が落橋して約一里上流に上つて漸く町に入つた早速巡査駐在所に到着して聞いて見ると吉里々々安渡方面の慘狀は激しいと云ふことだ中でも哀れなのは築港工事の事務員九人此の人達は地震があれば津浪が起ることを知らない人達でそのまゝ寢て居たらしいそして全部犧牲者となつた或家では五歳位の子供を抱いて寢て居た母が潮が追つて來たので子供を捨てゝ逃げて自分だけ助かつたとの事だ涙なくして聞かれない話ばかりである山田方面から來た人の話によると同方面はトテも被害が激しいとの事なので之から吉里々々安渡方面に向ふ豫定、縣から應援巡査が來た赤十字救護班も見える炊出しを運ぶ人もある罹災者臨時收容所は小學校であるがその他の地方の狀況は通信機關杜絶のため全然不明である交通機關通信機關は當分開通の見込がたゝない

その後に來るもの
心配さるゝ傳染病

衛生課の指揮する罹災救濟の醫療班は被害地各地に於て活動して居るが四日午後迄に到達した各班の報告によると九戸地方は加療班充分で近く引あげ久慈署下に於ても負傷者の應急處置は全部の罹災者に行きとゞいて居る然し病氣の發生はむしろ今後にあり氣のゆるみ或は食物の變化で胃腸を害ふるので災害地方に井戸の消毒浸水家屋の清潔法便所くみ取りの勵行等を徹底させることになつた

罹災者へ骨壺配給
釜石署から百八十人分

（釜石電話）罹災者達は屍体の處置に困つて居り氣仙郡唐丹村方面では河原に屍体がごろ〳〵として居り悲慘の極みを呈して居り釜石警察署では之等罹災民に對し骨壺を配給する事になり取敢へず四日百八十人分を縣に注文した

亡靈慰問使

縣では震災地亡靈慰問使として佛教會より左記講師を五日派遣することになつた

盛署下　岩瀬豐英、稻田泰堂、遠藤淵山
釜石署下　藤本正道、斗ケ澤慶雲・阿部大環
宮古署下　上舘全靈、海野靈雄　村松海恩
岩泉署下　及川富雄、山本悟岳
久慈署下　松尾正觀、淺沼俊道

救ひの神樣
驅逐艦が投錨
祈りの寒夜を送る
山田

（山田電話）流失家屋一百五十、倒壞七十三死者二名行方不明五名を出した山田町は大津波の引けた三日朝町の中心にある警察署から南全部が泥海にさらわれて居る狀態に避難先から歸つた町民の心を暗くし殆んどなす處を知らず宮古からの交通も大槌からの交通も遮斷されたので孤立の狀態に置かれたが町當局は直ちに救護處置を取り一般避難者は小學校寺院等に收容されたが夜に入り再び津波の襲來を懸念し取容しきれない避難者等が裏山の八幡社其他の安全地帶を選んで焚火をしながらゴザむしろの上に一夜を明かす狀態であつた身をもつて危難を脫した人達のことゝて齊る布團もなく一枚の掛布團に七八人ももぐり込み寒夜にふるへながらも今回來の恐怖と疲勞の神經を休ましてゐる狀態は人間世界に見られぬ悲慘事だ死んだ二人は同町佐藤龜太郎氏（三五）同佐藤次郎（二三）で龜太郎氏は恰度漁中であつたので逃げ遲れて犧牲になつてしまつた行方不明の五名もその後どんなに搜索しても見あたらず結局はやはり死亡と見られてゐる四日朝になつて救援のために三日朝橫須賀を出動した驅逐艦一艘を沖合に見出した時は全町民地獄で佛樣に會つた樣な氣持になり目に淚を光らして感謝の意に滿たされた、驅逐艦は港內に投錨水兵上陸、救ひの神樣が來たといふので皆元氣が出て約三十名の水兵の人達の努力で倒壞家屋の後片付をするもの驅逐艦がもつて來た毛布の分配に寒さを凌ぐもの食料品の配給を受けるもの等で漸く死の町からよみがへつた樣な氣持である

雪が降り出す

臨海地方は四日夕四時頃から小雪がちらつきだし寒さも加はつたが測候所の觀測では東海岸一帶は盛岡と同樣夕方から降り出しこの雪は五日朝迄續く模樣であるが幸に強い風はたゝないと

出身海兵
歸鄉許可

橫須賀海軍鎭守府では罹災地より本年一月海兵團入團の縣出身海兵に歸鄉を許すこととなり司令長官から命令があり四日被害地海兵十七名がまづ歸鄉し勞力奉仕を行ふことになつた

三菱安田から
救恤金申出で

（東電）三陸地方罹災民救恤のため三菱から三萬圓安田善次郎氏から一萬圓を四日夫々內務省に申出たので內務省はこれ等を快く受理しこれが使途について協議中

縣よりの救恤品
ゆふべ六時現在

縣社會課內救護司令部では罹災救援食品衣類等を順次自動車及び汽車便を以て釜石、宮古、久慈、岩泉の各地救護本部へ輸送を行つてゐるが本部に於ては靑年團、軍人會員、消防組員の手を藉り配給に萬遺憾なきを期してゐるその物品の種類は白米の外三十六種に及びこの中には毛布、寢具、鍋釜、ランプ、マッチの果てまで包含されてゐるが四日午後六時現在の重なる物品配給狀況左の如し

	白米	味噌	毛布	衣類
釜石方面	一六〇俵	一四三樽	一、三〇七枚	三、七一五點
宮古同	一二〇	一三	七一	三、九五五
盛同	四八	二〇	一六六	二、七五五
久慈同	二〇	二九	四二七	一、〇五五
岩泉同	三三	六八	一〇〇	一、〇四〇

（一般の寄附物品も包含されてゐる）
尙寄附金は四日午後六時までに一千圓集つたと

浚はれた家族五人
宇部村の派遣兵
九戸の詳報

（久慈電話）九戸郡長內村二子の佐與工事に働くため稗貫郡稻市村金澤龍藏（三〇）草薙松藏（一八）菊野松次郎（一八）信田直三郎（二〇）の四名は何れも津浪のあつた當夜着いたばかりで未だ働かない中に津浪にさらはれ溺死した

×

（同上）久慈町出身九戸郡稻市村宿戸小學校小原富太郎（二四）訓導は八木の下宿先で同僚田村儀一郎訓導と共に津浪の犧牲となつたが死体は四日久慈町に漂着五日葬儀を行ふ

×

（同上）九戸郡宇部村小袖大下仁太郎方では一人の弟が目下滿洲に出征中であるが母ムラ（六二）を始め妻マン（二六）妹タキ（二〇）與イシ（八つ）トシエ（四つ）の五人は津浪の爲さらはれ悲嘆にくれてゐるが出征軍人の家族だけに特に同情が集つてゐる

×

（同上）九戸郡沿岸の漁船は殆んど全部流失しつくし屍体の搜索にも差支へることであるが船大工は少なくこれが設備に相當の日數を要し隨つて一般は差しあたり正業につくことが出來ずこれが對策は最も急を要するものといはれてゐる

野田津浪の跡とその救援振り

鈴なりで
配給を受く
釜石救護狀況

（釜石電話）釜石町では小野寺町長をはじめ町會議員町役場吏員等不眠不休で縣の救護班と力を合せ罹災者救濟に狂奔してゐるが四日花卷町をはじめ各方面から布團味噌等の救恤品が到着し直ちに罹災者に急報して配布してゐるが罹災者達は鈴なりに連なつて配給を受けてゐる尙同町では五日午後一時より町役場に緊急町會を招集し救濟方法の具体案を決定することになつたが過般議決した昭和八年度豫算を度外視した非常時豫算を編成し救濟の全きを期する事になつてゐる殊に出征軍人家族の罹災者に對しては特別の救濟方法を講ずることになつた

早池峯丸で
唐丹へ配給

（釜石電話）被害の最も甚だしい氣仙郡唐丹村の罹災民に對し縣から派遣されて來た釜石町の救護班では四日取敢ず早池峯丸で米二十俵その他味噌衣食物雜品等を送り配給した

襟巻までも
置いて
奇特な婦人
本社へ

四日午後三時五十分ころ本社に三十二三歳の婦人が訪問し『東海岸の氣の毒な方々におあげして下さい』と現金十二圓と衣類一包を置いて名も傳へずに立ち去つたが間もなく引返して更に着用してきた襟巻を『此の寒さでは一層同情に堪へませんから之も贈つて下さい』と係員に渡し立去つたが此の奇特な婦人につき本社では調査の結果市內新庄町鹿島下小森ヒサ子さんと判明した

工兵道路修理

衛戍司令部より四日午後二時派遣の工兵隊佐藤少尉以下十三名の先發隊は午後六時半山田着その報告によれば直ちに附近道路復舊工事に着手し宮古町と當町の間に橋梁修理は材料到着次第工事着手する

罹災地へ藥
藥劑師會から

縣藥劑師會より四日縣衛生課に罹災民用左記藥劑を發送方委託あつたので直ちに發送した
△胃腸藥四七〇袋△解熱鎭痛劑六六四袋△霜燒きず藥六六〇袋

鐵道運賃減免

（東電）鐵道省では三陸地方の震火災津波による救恤品復興建築材料の輸送について運賃の減免を四日より開始する旨發表した減免種類は全免と五割減の二種である

下田式肝油　メガネ肝油
日本藥局方肝油　實用吸入器
特賣　材木町　太田藥店　電話二五九番

遠野釜石間自動車
開通

遠野釜石間自動車は四日午後一時から開通した

市北大學救護班

四日午前十時五分東北大學醫學部十三名を以て組織する救護隊班は十時三十分唐丹に向け出發した旨遠野署に入電あつた

輕便で評判の良い
千鳥食堂
盛岡市仁王士橋際

防寒外套七千着
被服本廠より

（東電）陸軍では內務省社會局の希望により震災地の岩手縣に對し被服本廠より毛布類防寒外套七千着を四日急送した

愛婦より二千圓

（東電）愛國婦人會は三陸沿岸震災地に對し取敢ず岩手縣支部に金二千圓を電送した

岩谷堂自警團應援

岩谷堂町自警團員十五名は三日午後十時半黒澤尻町より自動車をかつて災害地の釜石町へ急行した

高橋大尉の報告

衛戍司令部派遣高橋大尉は久慈町にて縣より出張の久尾課長と同車視察による報告左の如し
1 釜石町出征軍人家族二戸流失
2 宮古出征軍人岩間竹造の父死亡田老同上鳥居德松、川村喜八、久保田德吉、前川幸吉、鳥居安太郎、館石龍平、家族家屋流失
3 普代村字小袖屍体發見六流失五倒壞五不住家となれるもの二〇中野村被害者四名久慈屍体發見一流失一不住家一　長內死亡二名　大澤村夏井村各六

曹洞宗大本山へ
救助の申請

三陸沿岸罹災地住民の大部分は曹洞宗であるため岩手縣曹洞宗務所にてはこれが救恤のため活動を開始しとりあへず五名の慰問使僧を被害地へ發足せしめる一方遠藤洲山師は四日縣當局の詳細なる調査を攜へて上京大本山總持寺永平寺へ罹災者救恤の陳情をなすと

石鳥谷の救援品

稗貫郡石鳥谷町役場では四日百圓代の物品を購入して釜石町の罹災民に寄贈した

東京各團慰問募集

（東電）東京府市商工會議所では三陸震災義捐金品募集について協議した結果四日より三十一日まで府は府社會課市は社會局で商工會議所では各區町村役場に於て義捐金品の受付を行ふことになつた

三陸災害義捐金
（四日本社扱）

五圓內加賀野小路菊池小八郎　五圓同　三明院　二圓四ッ家町加藤清次郎　六圓　夕顏瀨多賀共和會員　三圓同女中一同　醬油五斗十三日町濱屋商店　下駄百五十足肴町熊長分店　鼻緒百五十足肴町同　十圓內丸佐藤自動車　五圓同同從業員一同　衣類百五十點　開運橋際宮田他人　十圓肴町金子齒科醫院　ナショナル電氣ランプ百ヶ東京松下商會　五十圓市外本宮村友治郎　三圓市內鉈屋町井上治郎　五圓同櫻小路花月亭　手拭三百本肴町川德吳服店店員互福會　一圓上衆小路外川忠兵衛　衣類一揃內丸公會堂多賀淺沼ハナ　一圓六日町鈴木齒科醫院　五圓同鉈屋町白岩久治　三圓同花屋町通り丸茂吳服店　十圓日影門外小路帝室林野局東京支局盛岡出張所　十圓市內本町大安質綿本舖　毛布十枚　メリヤス下着五枚同　一圓上田小路一青年より　七圓內丸河畔ルーム女給雇人一同　十三圓五十錢市內肴町濱藤本店從業員店員女中一同　三十圓市內仙北町山田清之助　二圓六十錢市內仁王榮園盛岡裁縫女學校生徒一同　ズボン十五足市內鍛冶町小野寺商店　一圓牧原卓雄　十圓市內馬町季村一郎　五圓池坊岩手縣研究會　二圓九十五錢衣類十捆市內三ッ割青年　二十圓市內仙北組町電氣研究所盛岡支所　三圓市內北山北山光臺寺女人講　二圓五十錢十三日町渡邊洋服店店員一同　衣類大澤川原小路一條　一衣類四個六日町高與旅館　五圓新馬町社陵美容院　五圓　池武子　一圓向同菊池くに子　五十錢同佐々木なよ　三十圓衣類三十三日町齋藤仁助　三十圓衣類十三日町々會同青年會有志十六名　十二圓衣類一包新庄鹿島下小林ひさ　十七圓三十錢明治會盛岡支會　衣類一包內丸下の橋通澤田トヨ　ビスケット二箱東北高等女學校四年甲組一同　パン一箱同乙組一同　サツマ諸一俵　衣類八捆東北高等女學校生徒一同　二圓市內榮園老幼町古竹女中一同　三圓贈澤郡前澤町無名氏　三圓衣類一包仁王小路佐藤洋服店　味噌一樽市內小人町荒川福右衛門

合計六百七拾貳圓七拾五錢

けふの天氣

內陸部　北西の風小雪が降つたりやんだりで次第によくなりませう
沿岸部　北西の風曇空で時々小雪がふりませう海上は次第に波立ちますから注意を要します

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。